

施策評価調書〔途中評価(平成30年度実施)〕

長崎県総合計画における位置付け

作成年月日		平成30年10月26日	長崎県総合計画記載ページ	26	P
将来像	交流でにぎわう長崎県	施策主管所属	文化観光国際部国際観光振興室		
基本戦略名	1 交流を生み出し活力を取り込む	課(室)長名	室長 土井口 章博		
施策名	(3) 海外活力の取り込み	施策関係所属(部局名課名)	文化観光国際部物産ブランド推進課 国際課		

1 施策の内容

【取組の概要】	【めざす姿】
海外の需要を取り込むため、これまでに培った歴史や文化、人のつながりを活かしながら、新たな海外拠点づくりや外国人観光客の誘致など、国や地域ごとの特性に応じた戦略的な取組を進めます。	アジアをはじめとする海外活力が取り込まれ、県内経済活動が活発化している。

2 施策の進捗状況と評価

施策の進捗状況の評価																						
□ A : 順調 ■ B : やや遅れている □ C : 遅れている																						
<p><<これまでの成果>></p> <ul style="list-style-type: none"> ●平成29年のクルーズ客船入港数は、前年の273隻を上回る365隻となり、過去最高を記録した。 ●国際定期航空路線の利用者数については、長崎～上海線は中国からの訪日旅行の回復等により、ここ10年での最多利用者数を達成し、長崎～仁川線は1年間運休後、平成29年10月から再開したことで、平成29年度の利用者数は前年度の1.5倍となった。 ●アジア諸国における長崎県の認知度については、海外に向けた情報発信を積極的に行った結果、平成28年度は57%（目標52%）、平成29年度は61%（目標54%）と2年連続で目標を達成した（中国及びベトナムのイベントでアンケート調査を実施）。 ●日中韓3か国交流事業数については、青少年交流や交流演奏会、サッカー交流などの事業を実施し、平成28年度は4件（目標3件）、平成29年度は6件（目標4件）と2年連続で目標を達成した。 ●帰国後の元留学生等交流人数については、帰国留学生等のネットワークである、中国長崎同学会やベトナム長崎同窓会などと現地意見交換等を実施したことで交流人数の増加に繋がっている。 ●県産品の輸出額については、海外での長崎フェアの開催等による県産品のPRや、県内商社への委託による県産品の海外販路拡大等に取り組んできたことにより、特に中国、香港、台湾への陶磁器、加工食品等の輸出が大幅に増加し、輸出額は前年度比65%増となった。 ●特定複合観光施設（IR）については、本県へのIR導入にかかる基本的な考え方、方向性を示す長崎IR基本構想のとりまとめに向け、有識者会議による検討、民間事業者からのアイデア募集を行うとともに、県民説明会等の広報活動、経済界との共同での要望活動等を実施した。 <p><<進捗状況に課題がみられる分野>></p> <ul style="list-style-type: none"> ●国際定期航空路線の利用者数については、平成29年度は実績値は前年度の1.5倍となったものの、他空港との競合関係などの要因により目標値の61%に留まっている。 ●県産品の輸出については、百貨店や飲食店での県産品フェアの開催により、そうめんや陶磁器など商品定番化が図られたものもあり一定の効果があったものの、取扱品目数は限られている状況である。 	<table border="1"> <caption>国内外のクルーズ客船入港数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26 (基準年)</td> <td>-</td> <td>92</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>221</td> <td>273</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>234</td> <td>365</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>246</td> <td>246</td> </tr> <tr> <td>H31</td> <td>258</td> <td>258</td> </tr> <tr> <td>H32</td> <td>270</td> <td>270</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	H26 (基準年)	-	92	H28	221	273	H29	234	365	H30	246	246	H31	258	258	H32	270	270
年度	目標値	実績値																				
H26 (基準年)	-	92																				
H28	221	273																				
H29	234	365																				
H30	246	246																				
H31	258	258																				
H32	270	270																				

3 施策の成果指標の進捗状況

指標		基準年	H28	H29	H30	H31	H32	最終目標(年度)	進捗状況の分析
国内外のクルーズ客船入港数	目標値①		221隻	234隻	246隻	258隻	270隻	270隻(H32年)	平成29年の入港実績は、長崎港267隻、佐世保港84隻、離島港等14隻の365隻。中国発着クルーズの寄港数が増加しており、平成28年の213回（全体の78%）に対して、平成29年には全体寄港数の8割を超える299回に達している。
	実績値②	92隻(H26年)	273隻	365隻				進捗状況	
	②/①		123%	155%				順調	

指標		基準年	H28	H29	H30	H31	H32	最終目標(年度)	進捗状況の分析
国際定期航空路線の利用者数	目標値①	/	80千人	85千人	95千人	110千人	115千人	115千人 (H32年度)	国際定期航空路線のうち、平成28年度はソウル線が平成27年10月から1年間運休していたこともあり、目標値の44%に留まったが、平成29年度はソウル便の再開や、上海便がここ10年間で最多利用者数を達成したことから実績値は伸びたものの、訪日客の流れが依然、東京、大阪などのゴールデンルートに集中していることもあり、目標値の61%に留まった。
	実績値②	72千人 (H26年度)	35千人	52千人				進捗状況	
	②/①	/	44%	61%				遅れ	

4 新たな課題や社会情勢の変化等

- クルーズ客船については、長崎港、佐世保港、離島港等で入港状況等が異なっており、港の実状に応じた取組が必要。
- 国際航空路線については、国際航空路線の利用者のうち、FITが占める割合が増えつつあることから、旅まえ、旅なか（着地）におけるきめ細かな本県の観光情報を発信する必要がある。また、インバウンド客は広域に周遊するのが実態であることを踏まえ、九州内の他空港と組み合わせた広域周遊観光ルートの開発などに取り組む必要がある。
- 県産品の輸出については、百貨店や飲食店での県産品フェアの開催により、そうめんや陶磁器など商品定番化が図られたものもあり一定の効果があつたものの、取扱品目数は限られている状況である。
- 特定複合観光施設（IR）については、本県以外にも北海道や大阪府・市、和歌山県などで誘致の動きがある中、平成30年7月にIR整備法が成立し、全国での区域認定数の上限が3箇所とされた。



5 課題を踏まえた今後の対応方針

- クルーズ客船については、離島港等への欧米小型船の誘致活動を強化するとともに、増加したクルーズ船による経済的な効果を高める取組を推進する。
- 国際航空路線については、SNSやWEBなどを活用したデジタルデータマーケティングの推進により、本県の観光情報の発信を強化するとともに、九州内他空港と組み合わせた周遊観光ルートの開発に関係旅行社や航空会社と連携して取り組む。
- 県産品の輸出については、今後、効果的なPRを実施するため、フェアの開催場所の選定や実施方法について、庁内関係課の動きや市場の動向などを踏まえ、さらに検討を行う。また、関係部局、生産者団体、県内企業との連携をより深めることにより、効果的に海外における本県の知名度向上と県産品の販路拡大を図っていく。
- 特定複合観光施設（IR）については、実施方針の策定、事業者の公募・選定など、区域整備計画認定申請に向けた準備を着実に進めていく。併せて、九州各県・経済界とも連携しながら、国に対する働きかけを行うとともに、説明会の開催等により県民の理解促進を図っていく。

6 施策を推進する事業群の状況

事業群①「経済成長著しいアジア諸国の活力を取り込むための取組」	事業群評価調書 1-(3)-①③ 参照
事業群②「海外需要を取り込むための県産品輸出と誘客の取組」	事業群評価調書 1-(3)-② 参照
事業群③「日中韓トライアングル構想の推進」	事業群評価調書 1-(3)-①③ 参照
事業群④「LCC等国際航空路線の強化と長崎空港の活性化」	事業群評価調書 1-(1)-④、1-(3)-④ 参照
事業群⑤「統合型リゾート（IR）の導入」	事業群評価調書 1-(3)-⑤ 参照
事業群⑥「国際交流機能の充実・強化」	事業群評価調書 1-(3)-⑥ 参照